



大賞

エズラ・F・ヴォーゲル

米国 / 社会学

エズラ・F・ヴォーゲル氏は、戦後アジアの政治経済社会の変動、とりわけ1960年代から2000年代にかけて、日本と中国の研究を中心に多大な成果を挙げてきた。同時にアジアの新興工業経済地域(NIEs)の分析などの先駆的な研究を行い、また東アジアの国際関係史に関しても同地域の研究者と共同研究を重ね、冷静で重みのある提言を行うなど、氏のアジア理解と平和への貢献は絶大である。



学術研究賞

アジュマルディ・アズラ

インドネシア / 歴史学

アジュマルディ・アズラ氏は、イスラーム思想研究の優れた歴史学者、革新的な教育者、中道・穏健なイスラームを説く知識人である。インドネシアにおける多面的で調和ある市民社会の形成に尽力し、イスラーム文化の深い理解に基づく実践的な活動は国際社会においても異文化間の相互理解に大きく貢献している。



芸術・文化賞

ダニー・ユン

香港 / 演劇

ダニー・ユン氏は、演出家、劇作家、舞台美術家として多数の斬新な舞台作品を発表する一方、国際交流、文化政策、芸術教育の分野にも熱心に取り組み、アジアと世界、伝統と現代といった、領域や世代を越えた人と人々を繋ぐ多彩な活動で、アジアの芸術・文化の発展に大きく貢献している。



大賞

エズラ・F・ヴォーゲル

米国

社会学者(ハーバード大学ヘンリー・フォードⅡ世社会科学名誉教授)

1930年7月11日生(83歳)

贈賞理由

エズラ・F・ヴォーゲル氏は、1967年以來、ハーバード大学教授として研究・教育に従事し、第二次世界大戦後のアジアのダイナミックな政治経済社会の変動を追究し、多大な成果を挙げてきた。特に高度経済成長期の日本(1960-1980年代)と、急速に台頭した中国(1980-2000年代)への深い洞察と緻密な実証研究は顕著な業績である。また、東アジアの国際関係史に関しても同地域の研究者と地道な共同研究を重ね、冷静で重みのある提言を行ってきた。氏から薫陶を受けた研究者は多く、斯界の泰斗として広く尊敬されている。

ヴォーゲル氏は、1930年にオハイオ州デラウェアで生まれ、50年にオハイオ・ウェスリアン大学を卒業、58年にハーバード大学社会関係学科で博士号(社会学)を取得した。1972年から2000年に退職するまで、同大学の東アジア研究所長、日米関係プログラム代表、フェアバンク東アジア研究センター所長を歴任し、1993年から95年には米国国家情報会議東アジア担当国家情報官を務めるなど、米国の東アジア研究、対アジア政策の重責を担ってきた。

ヴォーゲル氏は最初の代表的著作『ジャパン・アズ・ナンバーワン』(1979年)において、単なる日本賛美ではなく、乏しい天然資源の中で工業化を進めてきた日本が、脱工業化社会に向かう過程で直面する問題を世界のどの国よりも巧みに処理してきたと評価し、アメリカが学ぶべきモデルの国として日本を紹介した。欧米以外の国をモデルにするという本書の主張は、画期的なものであった。

『中国の実験-改革下の広東』(1989年)は、まさに天安門事件が起こり、中国における改革開放の推進が危ぶまれていた最中に出版された。同書は、改革の最先端にあった広東省の10年を1987年と88年の集中的な現地調査をもとに分析したもので、氏は同省の実験はやがて中国の発展モデルとなり、アジアの新興工業経済地域(NIEs)との連携を促すと予見している。2000年退職後、鄧小平の研究に力を注ぎ、膨大なインタビューや内部の資料などをもとに分析を行い、2011年に『現代中国の父-鄧小平』を出版した。中国現代史を再構築し新たな地平を切り拓いた同書は、ウォールストリート・ジャーナル、ワシントン・ポスト、英エコノミスト誌などの「ブック・オブ・ザ・イヤー」に選ばれ、世界の注目を集めた。

東アジアを理解するうえで先駆的な研究を世に示すとともに、歴史研究を踏まえ同地域における国際関係のあり方について貴重な提言を行ってきたエズラ・F・ヴォーゲル氏は、まさに「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。

経歴

エズラ・F・ヴォーゲル

- 1930 米国オハイオ州生まれ
 1950 オハイオ・ウェスリアン大学卒業(社会学)
 1958 ハーバード大学博士号(社会学)
 1958-60 日本語習得および日本の中間階級研究のため初来日
 1960-61 イェール大学助教
 1961-64 ハーバード大学博士研究員(中国語と中国史研究)
 1964-67 ハーバード大学講師
 1967-2000 ハーバード大学教授
 1972-77 ハーバード大学東アジア研究所(現フェアバンク中国研究センター) 所長
 1972-90 ハーバード大学東アジア研究の学部重点課程担当理事
 1977-80 ハーバード大学東アジア研究協議会会長
 1980-87 ハーバード大学国際情勢センター日米関係プログラム担当代表
 1987- ハーバード大学国際情勢センター日米関係プログラム名誉代表
 1993-95 米国国家情報会議(NIC) 東アジア担当国家情報官
 1995-99 ハーバード大学フェアバンク東アジア研究センター(現フェアバンク中国研究センター) 所長
 1997-99 ハーバード大学アジア・センター所長
 2001 アジア財団東アジア政策提言タスクフォース共同ディレクター

受賞歴

- 1970 ハーバード大学出版社「ブック・オブ・ザ・イヤー」(『共産主義下の広州』)
 1996 国際交流基金賞
 1998 ジャパン・ソサエティー賞
 2009 第8回井植記念「アジア太平洋文化賞」
 2011 全米出版社協会PROSE賞「欧州・世界史部門」特別賞(『現代中国の父－鄧小平』)
 2012 ライオネル・ゲルバー賞(『現代中国の父－鄧小平』)
 米日財団特別功労賞
 第2回世界中国学研究貢献奨
 2013 ボストン・ジャパン・ソサエティーより特別功労賞

関西学院大学、モントレール国際大学院、メリーランド大学、マサチューセッツ大学ローウェル校、ウィッテンバーグ大学、ボリング・グリーン州立大学、アルビオン大学、オハイオ・ウェスリアン大学、香港中文大学、山口大学から名誉学位授与

主な著作

- 『日本の新中間階級－サラリーマンとその家族』バークレー：カリフォルニア大学出版社，1963.[日本語翻訳版あり]
 『共産主義下の広州－省都の政策と政治，1949～1968年』ケンブリッジ：ハーバード大学出版社，1969.
 『現代日本の組織と意思決定』(編集)バークレー：カリフォルニア大学出版社，1975.
 『ジャパン・アズ・ナンバーワン』ハーバード大学出版社，1979.[日本語翻訳版あり]
 『ジャパン・アズ・ナンバーワン再考』ニューヨーク：サイモン&シュスター，1985.[日本語翻訳版あり]
 『中国の実験－改革下の広東』ハーバード大学出版社，1989.[日本語翻訳版あり]
 『アジア四小龍』ハーバード大学出版社，1991.[日本語翻訳版あり]
 『日本はまだナンバーワンか?』ペランタック出版社，2000.
 『日米中三角関係の黄金期，1972－1989年』(共編)，ハーバード大学アジア・センター，2002.
 『中国の地域間戦争，1937－45年』(共編)，スタンフォード大学出版社，2007.
 『朴正熙時代－韓国の変容』(共編)，ハーバード大学出版社，2011.
 『現代中国の父－鄧小平』ベルクナップ・プレス，2011.[日本語、中国語翻訳版あり]
 *原著はすべて英語。邦訳版があるものは、邦訳版の著書タイトル使用



学術研究賞

アジュマルディ・アズラ

インドネシア
歴史学者(インドネシア国立イスラーム大学ジャカルタ校大学院長兼歴史学教授)
1955年3月4日生(59歳)

贈賞理由

アジュマルディ・アズラ氏は、優れた歴史学者、革新的な教育者、そして中道・穏健なイスラームを説き尊敬される知識人である。インドネシアにおけるイスラーム研究の発展と、調和ある市民社会の形成に尽力し、またその知的で実践的な活動は、国際社会における異文化間の相互理解にも大きく貢献している。

アズラ氏は、1955年に西スマトラ・パダン市近郊に生まれ、米国コロンビア大学に学び、中東研究で修士号、歴史学で博士号を取得した。氏は、17、18世紀の中東とマレー・インドネシア地域間のウラマー(イスラーム学者)のネットワーク(師弟関係や知的系譜)を、同時代のアラビア語の史資料に依拠して研究し、『東南アジアにおけるイスラーム改革主義の諸起源』(2004年)に結実させた。その中で19世紀以降に同地域で開花するイスラーム改革主義および新神秘主義は、その起源が定説よりもはるかに古く、地域間の交流と相互作用を通して形成されてきたことを実証的に解明した。同書は、近現代イスラーム思想史研究および文明間の思想伝播研究を深化させ、イスラーム世界における知的な東西交流の歴史の厚みを明らかにし、新たな研究展開を導いた。そのほかに、氏は10冊以上の単著書と多数の編著書・論文を発表している。

アズラ氏は、イスラーム教育の刷新を目指し、1998年より国立イスラーム高等学院ジャカルタ校の校長として大幅な組織改革を行った。新たに心理、経済・経営、理工、医学・健康、社会・政治の5学部および大学院を加えて、同校を国立イスラーム大学ジャカルタ校に昇格させ、同大学の初代学長を務めた(2002-06年)。また、2010年から2012年には国際アジア歴史学会の会長を務めるなど、国際的な学術・研究機関で重要な役職を歴任している。

さらにアズラ氏は、イスラームの教えの深い理解にもとづく中道・穏健な立場から、新聞・雑誌・テレビなどのマスメディアを通して、インドネシア建国5原則(パンチャシラ)と文化的多元主義の擁護、宗教間対話の促進などを熱心に説き、調和ある社会発展のために献身している。インドネシア国家研究評議会およびインドネシア学術会議において重要な役割を果たし、2005年に国民的荣誉である「マハプトラ勲章」を受章した。

学術の国際交流と文明・宗教間の対話に積極的に取り組み、イスラーム世界と非イスラーム世界の相互理解に多大な貢献をしてきたアジュマルディ・アズラ氏は、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。

経歴

アジュマルディ・アズラ

1955	インドネシア、西スマトラ、ルプカルン生まれ
1982	インドネシア国立イスラーム高等学院ジャカルタ校修士号(イスラーム教育)
1988	米国コロンビア大学修士号(中東研究)
1992	米国コロンビア大学博士号(歴史学)*1990年同大学修士号(歴史学)
1994-95	英国オックスフォード大学イスラーム研究センター客員フェロー
1998-99	トヨタ財団主催東南アジア研究地域交流プログラム選考委員
1998-2002	インドネシア国立イスラーム高等学院ジャカルタ校学長
2002-06	インドネシア国立イスラーム大学ジャカルタ校学長
2004-09	インドネシア国家研究評議会メンバー オーストラリア、メルボルン大学名誉フェロー
2004-11	パキスタン、国際イスラーム大学理事
2004-	インドネシア統治改革パートナーシップ創設者、諮問委員 インドネシア学術会議終身会員
2005	米国モンタナ州、キャロル・カレッジ名誉博士号(人文学) アジア財団 50周年記念賞(教育改革分野) マハプトラ勲章
2005-	タイ、アジア研究財団/行動するイスラーム教徒のアジア・ネットワーク諮問委員
2006-08	国連民主主義基金諮問委員(ニューヨーク)
2006-09	英国、アガ・カーン国際大学イスラーム文明研究所学術発展委員会メンバー(ロンドン) 英国-インドネシア・イスラーム諮問委員会共同議長
2007-09	インドネシア共和国副大統領室社会福祉次官
2007-13	民主主義・選挙支援国際研究所諮問委員
2007-	インドネシア国立イスラーム大学ジャカルタ校大学院長兼歴史学教授 日本財団アジア・フェローシップ国際選考委員
2008-09	世界経済フォーラム、信仰評議会メンバー
2008-	バリ民主主義フォーラム/平和民主主義研究所諮問委員
2010	大英帝国勲章
2010-12	国際アジア歴史学会会長
2012-	行動するイスラーム教徒のアジア・ネットワーク会長 インドネシア統治改革パートナーシップ諮問委員会会長

主な著作

- 『東南アジアにおけるイスラーム展望』(編集)(インドネシア語)、ジャカルタ: ヤヤサン・オボール・インドネシア、1985。
『ウラマールのネットワーク』(アラビア語)、ジャカルタ: インドネシア共和国 宗教省、1996。
『現代インドネシアにおけるシャリーアと政治』(共編)(英語)、シンガポール: 東南アジア研究所、2003。
『東南アジアにおけるイスラーム改革主義の諸起源: 17・18世紀における中東とマレー・インドネシアのウラマール(イスラーム学者)のネットワーク』(英語)、オーストラリア: アジア研究学会出版シリーズ、シドニー: アレン&アンウィン、ホノルル: ハワイ大学出版会、ライデン: オランダ王立東南アジア・カリビアン研究所より同時出版、2004。
『日本、イスラーム、イスラーム世界、インドネシア: 過去と現在』(英語)、ジャカルタ: 国際交流基金、2005。
『インドネシア、イスラーム、民主主義: グローバル・コンテクストにおけるダイナミズム』(英語)、米国: ソリステイス出版、2006。
『インドネシア世界におけるイスラーム: 制度形成の一考察』(英語)、バンドウン: ミザン・プスタカ、2006。
『イスラーム神秘主義百科事典』(編集)(インドネシア語)(第3巻)、バンドウン: アンカサ、2008。
『対立を越えるイスラーム: インドネシアのイスラームと西欧の政治学理論』(共編)(英語)、ロンドン: アシュゲイト出版社、2008。
『宗教的権威の諸相: 20世紀インドネシア・イスラームにおける変化と挑戦』(共編)(英語)、シンガポール: 東南アジア研究所、2010。
『インドネシアの歴史—第3巻、イスラームの到来と文明化』(編集)(インドネシア語)ジャカルタ: 教育文化省・イッヒティール・バルーヴァン・ホエフェ出版、2012。



芸術・文化賞

ダニー・ユン

香港

文化クリエイター(香港芸術家集団「進念・二十面體」芸術監督、香港現代文化センター主席)
1943年10月19日生(70歳)

贈賞理由

ダニー・ユン氏(本名:榮念曾^{ロビン・ユン})は、演出家、劇作家、舞台美術家としてこれまで100以上の斬新な舞台作品を発表する一方、国際交流、文化政策、芸術教育の分野にも熱心に取り組み、アジアと世界、伝統と現代といった、領域や世代を越えた人と人々を繋ぐ多彩な活動で、アジアの芸術・文化の発展に大きく貢献している。

ダニー・ユン氏は1943年上海に生まれ、5歳の時に香港に移住、米国カリフォルニア大学バークレー校で建築学を学び、コロムビア大学大学院で修士号(都市設計)を取得した。1970年代後半に香港に戻り、82年に芸術家集団「進念・二十面體」の結成に参加、85年以降、同集団の芸術監督を務めている。映像等のマルチメディアを駆使しながらも、中国の伝統芸能を常に意識した氏の舞台作品では、伝統を現代に活かす道筋が探られている。『伝統を実験する』(1991年-)、『一つのテーブル、二つの椅子』(1997年-)と題された現在も継続中のシリーズは、多数の伝統芸能家と現代舞台芸術家の参加を得て、香港のみならず、東京、シンガポール、台北、上海、ベルリン、ニューヨークなど世界各地で上演された。20世紀を代表する京劇役者程硯秋を取材して制作した演劇『荒山泪』で、ユネスコ国際演劇協会のミュージック・シアター・ナウ賞を受賞(2008年)。上海万博日本館で上演された短編舞台『トキ再生の物語』(2010年)では、中国伝統の昆劇役者集団による生の演技とデジタル映像によって、人間と自然の調和が美しく表現されている。公演は会期中6000回を超え、約400万人がその舞台に接した。

美術家としては、ビデオ、インスタレーション作品に加え、「天天向上」(中国語で「毎日進歩する」という意味)という名のキャラクターを題材にしたコミックやフィギュア、彫刻で知られる。ユン氏は同キャラクターを使ったワークショップを香港だけでなく欧米やアジア各地で実施し、自由な発想力の涵養が、新しい世界を創り出す原動力になることを人々に伝え続けている。

他方、香港芸術發展局の創設(1995年)に参画して以降、国際交流、文化政策、芸術教育の分野にも取り組み、自身がその創立に尽力した香港兆基創意書院(芸術高校)の理事を務めるかたわら、国際フェスティバル、共同プロジェクト、国際会議への参加や国際ネットワークの構築により、芸術家に限定しない人と人々を繋ぐ活動を世界各地で展開している。このような活動の中、2009年にはドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を授与された。その他、香港現代文化センターの主席等としても引き続き、香港を中心とした東アジアの芸術文化界に大きな影響を与えている。

このように舞台芸術と美術にとどまらない多彩な分野で大きな貢献を果たしたダニー・ユン氏は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

経歴

ダニー・ユン

1943	中国、上海生まれ
1948	一家そろって香港へ移住
1967	米国カリフォルニア大学バークレー校卒業(建築)
1969	米国コロンビア大学修士号(都市設計)
1982	香港芸術家集団「進念・二十面體」創設メンバー(1985- 芸術監督)
1993-95	香港芸術發展局創設メンバー(2000-04 評議会メンバー再任)
1995-2003	「ブラック・ボックス・エクササイズ」(アート教育プログラム)を開発し、世界60都市で実施
1996-98	香港科技大学芸術センター所長
1999-2000	異文化交流祭「ヴィジョン・フェスティバル」主催(ベルリン、香港にて)
2008	『荒山泪』でユネスコ国際演劇協会よりミュージック・シアター・ナウ賞受賞
2009	ドイツと香港の芸術・文化交流の貢献によりドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を受章
2010	中国上海国際博覧会日本館メインショー『トキ再生の物語』を佐藤信氏と共同演出 ユン氏創作フィギュア「天天向上」を基に50人の地元デザイナーに依頼した作品を 同博覧会の香港プログラムとして展示
2011	国際研究フォーラム「能と昆劇」を企画(南京、東京、香港にて) アジア・無形文化遺産(ICH)舞台芸術フォーラムを企画(香港にて)
2012	「天天向上 地域と学校発展のための創造性プログラム」を発表(香港にて) 「第1回トキ国際芸術祭」を企画
2013	香港演芸学院演劇学部長より演劇家マスターに任命 上海当代芸術博物館と共催でトキプロジェクトを展開(南京、上海にて)

主な舞台芸術作品

『東への旅シリーズ』香港、台北、フィラデルフィア、ロンドン、1981-99
『百年の孤独シリーズ』香港、台北、富山、水戸、シンガポール、1982-2012
『わたちの肖像』香港、台北、1984-91
『アヘン戦争—鄧小平への四通の手紙』香港、1984
『中国文化の深層シリーズ』香港、ロンドン、ニューヨーク、1990-96
『中国の事物と情を探すジークムント・フロイト』香港、東京、2002-03
『荒山泪』香港、シンガポール、ロッテルダム、横浜、2008-09
『夜逃げ』香港、シンガポール、台北、上海、横浜、2010-12
『舞台姉妹』香港、2010-12
『靈戲』香港、シンガポール、東京、2011-12

主な視覚芸術作品

『ビデオ・サークル』香港、オスナブリュック、シドニー、ベルリン、バンクーバー、1996-2003
『中国からの贈り物』(「インサイド・アウト:新しい中国アート」での発表作品)、米国、アジア諸国、1998-2000
『現代中国を求めて』香港アート・ビエンナーレ、2001
『毒草』(インスタレーション)、中国・成都、2002
『木・人』(個展)、香港、2003
『天天向上』(作品展・ワークショップ・交流プログラム)、パリ、上海、シンガポール、台北、香港、北京、アナーバー(米国)、東京、2007-13
『現代中国を求めて』(個展)、香港、2011

*作品名で邦訳があるものは、邦訳のタイトル使用